

- ◆ 会 場：柏崎原子力広報センター 研修室
- ◆ 出席委員：新野・川口・久我・佐藤・高橋(武)・武本・前田・牧委員 …8名
- ◆ オブザーバー：保安院／竹本所長 岡野副所長 熊谷検査官 エネ庁／七部所長
県／山田課長 東電／長野副所長 西田技術担当 森GM
- ◆ 事務局：市／村山主任 広報センター／井口事務局長 石黒主事

オフサイトセンター活動訓練(事前訓練)視察について

〈保安院〉今回は見学者の方が十分見られるようにレイアウトを変更した。避難計画を作るまでの作業や関係者のための訓練を実施するので、より多くの方に見に来ていただきたい。

〈事務局〉まとまってオフサイトセンターへ行きたいので9時半に柏崎地域振興局へ集合していただきたい。

次回以降定例会内容について

◆ 10月定例会(10月6日)

〈会長〉防災を再度取り上げることになっていたと思うが、ほかに協議事項はあるだろうか。

〈県〉前回定例会で、訓練自体は時間を圧縮して行うが実際はどういうものか知らせてほしいという意見をいただいた。そこで防災訓練についてのチラシを全戸配布する予定なので、仕上がり前で大きな変更はできないが委員に見てもらい意見をいただきたい。

(委員 了解)

〈会長〉先日の大雨のときの対応があまりうまくいかなかった地域の話聞いた。この地域の住民も何度も経験しているだろうがおそらく身につけていないのだと思う。そういうこともチラシなどで配布してもらえば少しは関心を持つのではないだろうか。例えば、防災無線は本来、非常時に使用されるものだがあまり体験がない。住民に事前告知した上で、本来の使用目的で使用してみることも良いのかもしれない。生活する者として良いアイデアはないだろうか。

〈保安院〉防災無線の話が出たが、例えば、「避難する必要がある、必要はない」と直接訴えた方が良いのか、「放射線の影響はない」等の言葉で、避難という言葉を使わないほうが良いのかなど、住民の感じ方や受け取り方を、機会があれば教えていただければと思う。どういう放送の仕方が良いのか、どういう広報の仕方が良いのか等、今後の参考となる。

〈会長〉防災のテーマとして、定例会でとりあげられるのではないか。

〈委員〉例えば、昨日の大雨では、柏崎市は、そういう兆候を察知した人は自主的な判断で避難していいですよ、というような言い方をしていた。水害は、目に見えるが実際に被害にあっている地域の人しか自覚できず、気付いたときには手遅れになることが多い災害。その意味でも「自主的な判断で避難」というのは聞いていて非常に良かった。同様に、原子力災害の場合も、万一、放射能の放出があったとしても、何日というスパンで時間がかかるので、段階を追った情報の出し方が大事。

〈委員〉知識、情報がないと冷静には動けない。そのためには基礎的知識の共通理解が必要。

〈委員〉住民には何度も繰り返し伝えることが必要。繰り返し伝えてもなかなか浸透していかないものなので、避難準備情報のような段階的なものはもう少しわかりやすくしないと難しい。

〈委員〉事象説明のあとで、「今後新たな情報を出しますので注意して聞いてください。」くらいの方が良い気がする。準備情報とするならば、とにかく情報が出るのでそれに関して関心を持っていてください、というアナウンスの方が良い。

〈委員〉本当に逃げる必要があるのかないのかが一番心配なこと。24時間は閉じ込められるという話だから、その間に逃げる準備をすれば良い。

〈委員〉ただ24時間ということをおそらく誰もわからないと思う。

〈委員〉1, 2日の間に事象が起こる、時間的にはこれだけかかるんだ、ということが事前に住民に周知できれば一番良いと思う。

〈会長〉こういう議論を10月のテーマとしたら良いと思う。テーマを2つほどに絞らないと際限なくなる。切り口としては、やはり防災無線は初期段階では当然有効と思うので、例えば情報の出し方とか、どういう情報がほしいかということにして良いだろうか。

(委員 了解)

【決定事項】

<議題・タイムスケジュール (案) >

18:30~19:00 前回以降の動き

19:00~20:30 防災についてのディスカッション

・情報の出し方、どういう情報がほしいのかなど。

・県の全戸配布予定のチラシの内容確認

20:45~ その他

◆ 11月定例会 (11月10日)

〈会長〉11月5日の防災訓練直後になるので議題になるかと思うがそれで良いだろうか。

(委員 了解)

【決定事項】

・議事内容は防災訓練終了後の反省など (予定)

◆ 12月定例会 (12月1日)

〈会長〉「今後の課題」について運営委員会で協議した内容を委員に事前送付し、できれば対応を協議したい。

(委員 了解)

【決定事項】

・日時 12月1日 (水) 18:30から 柏崎原子力広報センター

・議事内容は今後の課題に対する対応について協議 (予定)

視点43号 (第85回、第86回定例会分) について

〈事務局〉みんなの広場について、今回お一人だけとなった。もうお一人は、顔写真が載ることに了解いただけなかった。そのスペースは意見募集欄とさせていただきたい。

(委員 了解)

【決定事項】

- ・ 事務局案を読みやすくして校了。

「今後の課題」への対応について

〈会長〉委員から出してもらった「課題に対する意見」では、定例会の回数を2ヶ月に1回でいいという意見や、2ヶ月に1回では前回以降の動きだけで終わってしまうと危惧する意見もある。これらについては、前回運営委員会でも協議し、中には、ある程度方向性を出したのものもある。オフレコでの協議だったが内容について議事録を残している。概要がわかるので運営委員の了解をとった上で、委員配布したいと思うがどうか。

〈委員〉運営委員会全体の意見であるし、このまま配布して良いのではないかと。

(委員 了解)

〈会長〉では委員に事前配布したい。運営委員会の提案としては、①来年度、視察を実施すること。そのために、予算上の都合から12月には具体案を絞りたいこと。②定例会の回数を年10回にして、必要があれば臨時会を開くこと、としていいだろうか。

(委員 了解)

〈委員〉現状を委員に話すしかない。

〈事務局〉行先とその目的についてアンケートをとらなくて良いか。

〈委員〉運営委員会での議事録を委員に示し、実施するという決定になったら、その時点、またはそれ以降にアンケートをとれば良いのではないかと。

〈会長〉過去にとったアンケートで実現できなかったものがあるので、それを提示しても良いし、過去に行った先も提示してもらえればイメージも沸くのではないかと。

〈委員〉ただし、我々も最初は「なぜ行くのか」と思ったのと同じように、新しい委員もそう思うのではないかと。

〈委員〉結果的にふたを開ければ今までの委員だけということになりかねない。

〈委員〉自己負担となればなおさら。そうすると意味が薄れる。臨時会のときも本当に出てきてほしい人に出てもらえなかった。

〈会長〉視察がなくなって以降に委員になった方がなかなか空気になじめないという課題があり、本音を言い合える環境が整わない。存続さえ危うくなる。定例会に出席して思いを言うだけでは委員同士の絆が築けないのではないかと。

〈委員〉それを委員に話すしかないのではないかと。

【決定事項】

- ・ 運営委員会の協議の議事録を委員に事前配布し、その内容について委員に諮る（12月定例会を予定）

次回運営委員会

10月20日（水）18：30～